中学校１年生を対象とした漢字単語の評定調査
―心像性と親密度に関する調査―

○飯塚朱里（筑波大学大学院）　　熊谷恵子（筑波大学）

キーワード：漢字単語，心像性，親密度

問題と目的

心像性とは，心的イメージが「どの程度簡単に思い浮かぶか」を表した主観的特性値であり（佐久間・伊集院・伏見・辰巳・田中・天野・近藤，2002），親密度とは，単語のなじみの程度を主観的に評価した評定値である（天野・近藤，1999）。LD 児を対象とした研究でも利用されるようになっており，診断の補助的指標や有効な学習法の開発に役立つ可能性が示唆されている（明石・宇野・春原・金子・Wydell・粟屋・狐塚・後藤，2013）。しかし，子どもを対象とした研究であっても大学生や大学院生を中心に評定された成人の値である NTT データベースシリーズ（天野・近藤，1999；佐久間ら，2005）が使われている。土方・宇野・春原・金子・粟屋・狐塚・後藤（2011）は子どもの調査から，子どもと成人では，心像性や親密度は異なる傾向や値を示すことが示唆している。

本研究では，子どもを対象に漢字単語の心像性と親密度を調査し，LD 児の評価や指導に有効な，子どもの漢字単語の心像性と親密度を明らかにすることを目的とする。

方　　法

調査対象者

通常学級に在籍する中学校１年生 139 名。

課題

小学校の国語の教科書（東京書籍・光村図書）より，336 語を抽出した。漢字２字の熟語を抽出した。

手続き

心像性について「言葉のもつイメージ(心像性)とは，ある単語を見たり聞いたりした時に，そのものの見た目，音，感触，味，においなどがどのくらい簡単に思い浮かぶかその度合いを数字で表したもののことである」と教示した。親密度について「言葉への親しみやすさ（親密度）とは，ある単語をどれくらい身近に感じるか（よく見聞きするか）を数字で表したもののことである」と教示した。対象者には５件法での質問紙に回答してもらった。各単語の評定値を心像性，親密度とした。

結　　果

評定された値について

Table 1 より，得られた心像性の平均は 4.52，親密度の平均は 4.11 となった。また，心像性の最小値は「講話」の 2.48，最大値は「日本」などの 5.00 であった。親密度の最小値は「講話」の 2.44，最大値は「時間」の 4.91 であった。

評定された心像性と親密度の関係について

心像性と親密度間で相関分析を行った。心像性と親密度は強い相関を示した（r ＝ .810　p ＜.01）。

考　　察

得られた心像性と親密度は強い相関を示したことから，心像性と親密度は同じような特徴をもった単語属性であると言える。これは，佐久間ら（2005）土方らや（2011）の結果を支持する結果である。また，全実施単語の中で「講話」はイメージが思い浮かびにくく，身近にも感じにくい単語であることが明らかとなった。一方で，イメージは思い浮かびやすいものの，身近に感じないという単語もあったことから，同じような特徴を持つものの，単語によっては違う傾向を示すことに留意する必要がある。

今後，調査対象者を増やすとともに，特に親密度との関わりが深い頻度との関連も調査していく必要があると考える。

Table 1　得られた心像性と親密度について

	平均	最小値	最大値	SD
心像性	4.52	2.48	5.00	0.47
親密度	4.11	2.44	4.91	0.45

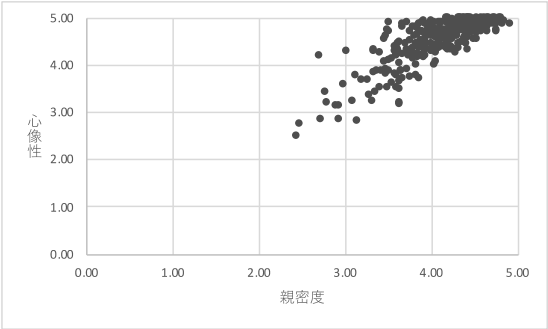

Figure 1　得られた心像性と親密度間の相関分析

引用文献

佐久間・伊集院・伏見・辰巳・田中・天野・近藤（2005）.単語心像性①日本語の語彙特性第８巻 三省堂.